
平成25年度
三重県臨床検査技師会
精度管理報告会（血液像）

済生会松阪総合病院
山本雄一

血液像症例

< 症例患者 >

83歳・女性

他院で血小板減少と肝機能障害を指摘され、
精査目的にて当院内科受診

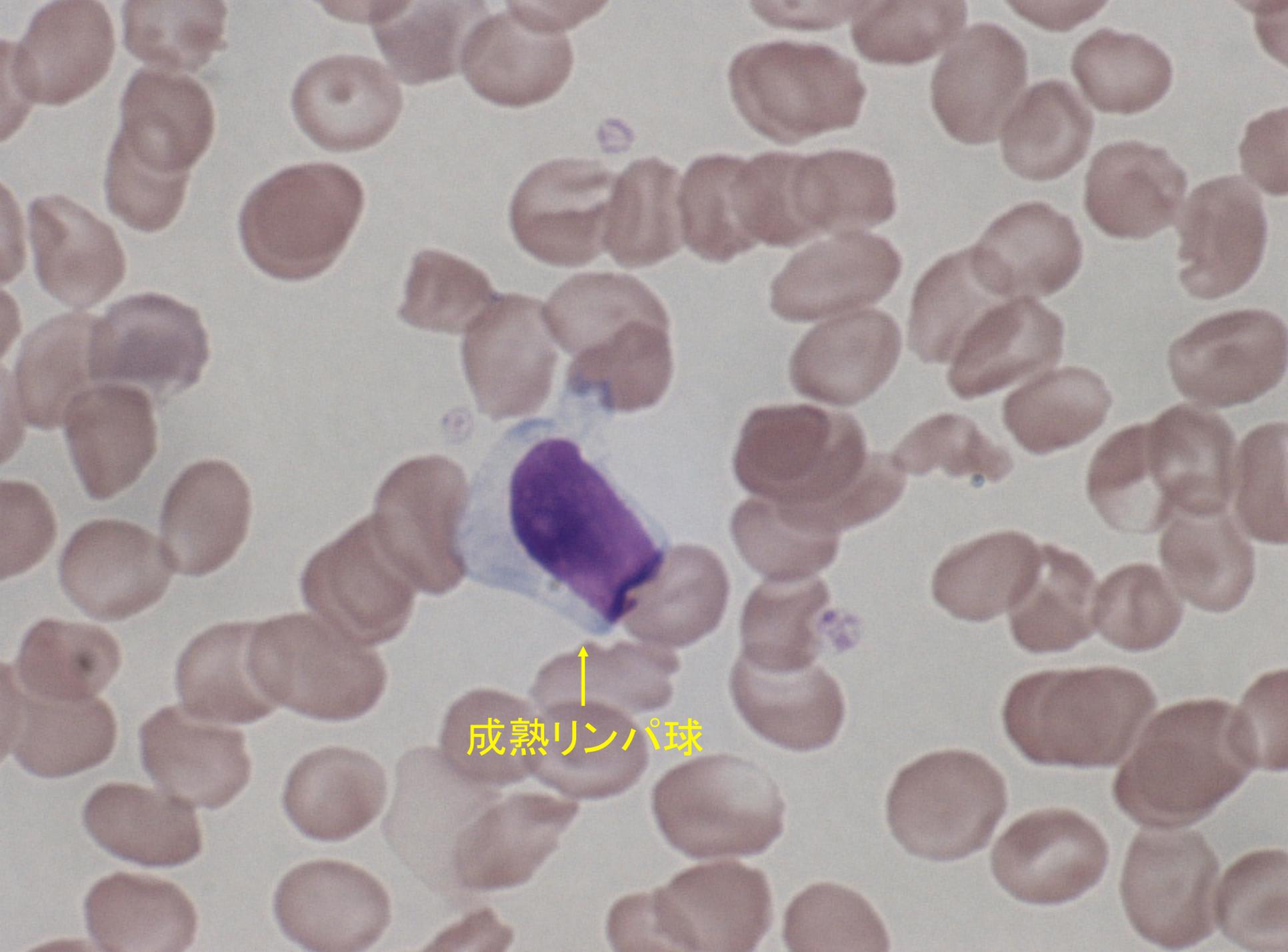
血液検査所見

<血液検査所見>

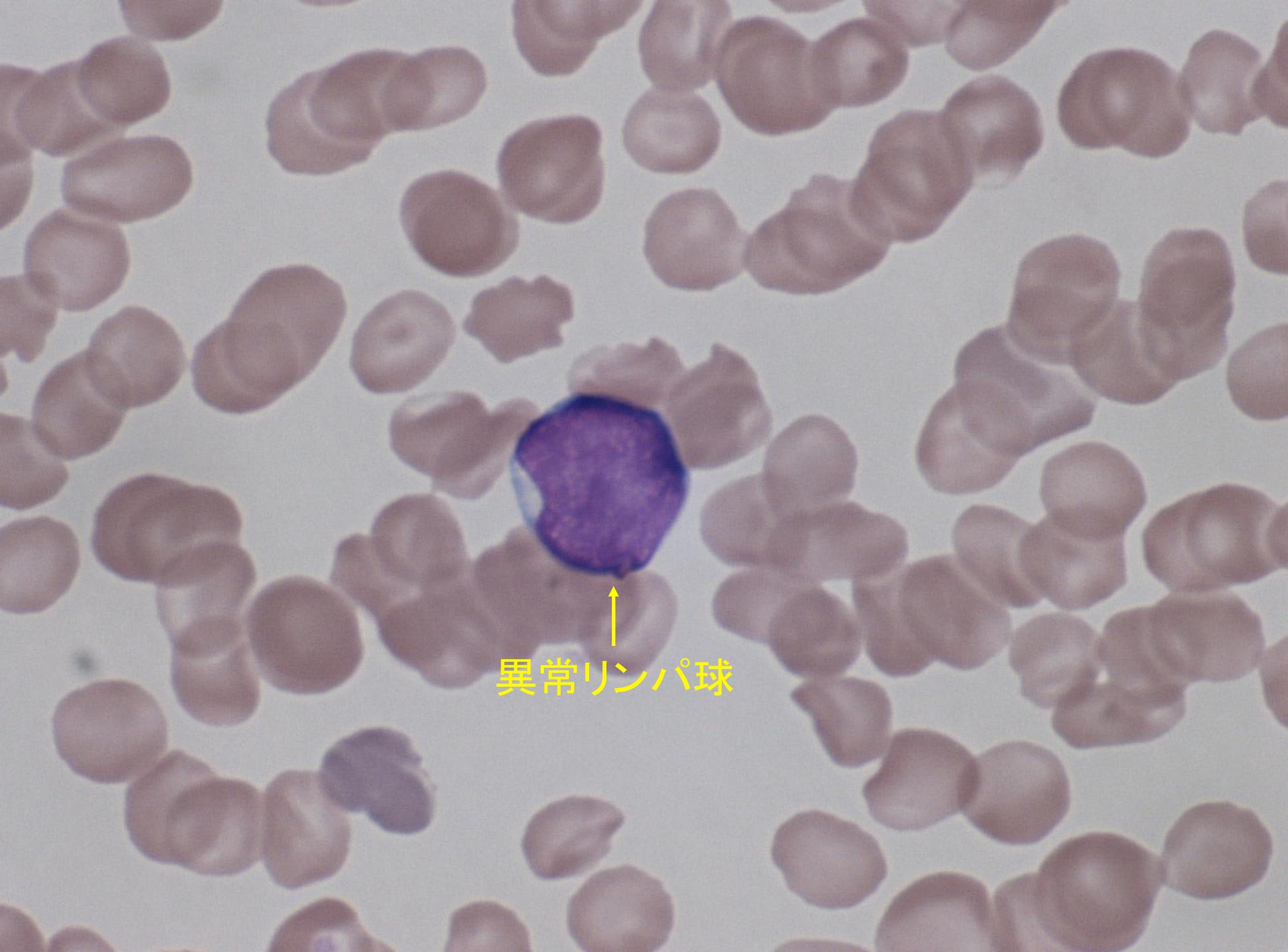
- WBC $11.2 \times 10^3/\mu\text{l}$
- Hgb 11.7 g/dl
- Hct 34.5 %
- PLT $6.8 \times 10^4/\mu\text{l}$

<生化学検査所見>

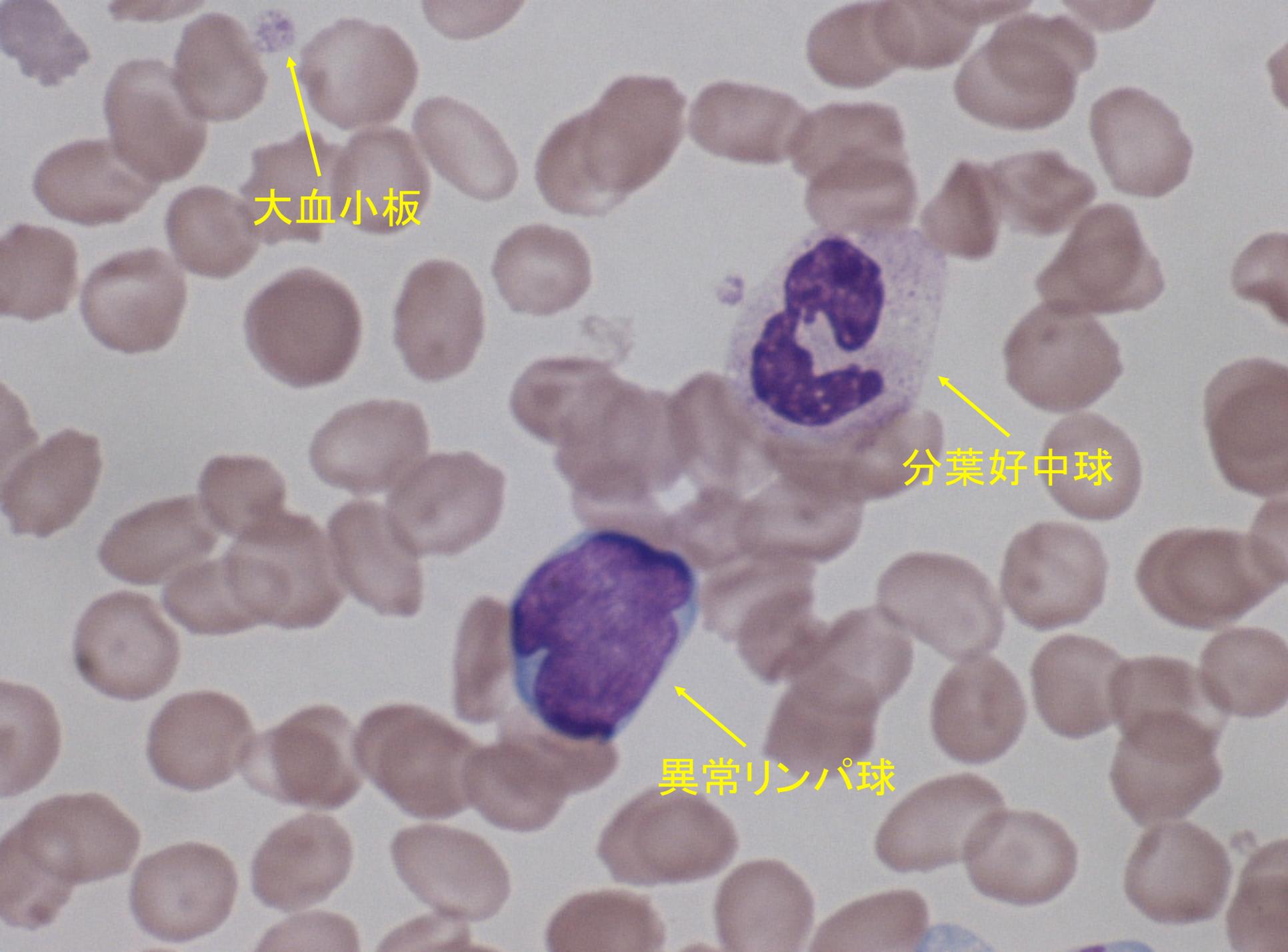
- AST 311 IU/l
- ALT 59 IU/l
- LDH 1156 IU/l
- ALP 441 IU/l



↑
成熟リンパ球



異常リンパ球



大血小板

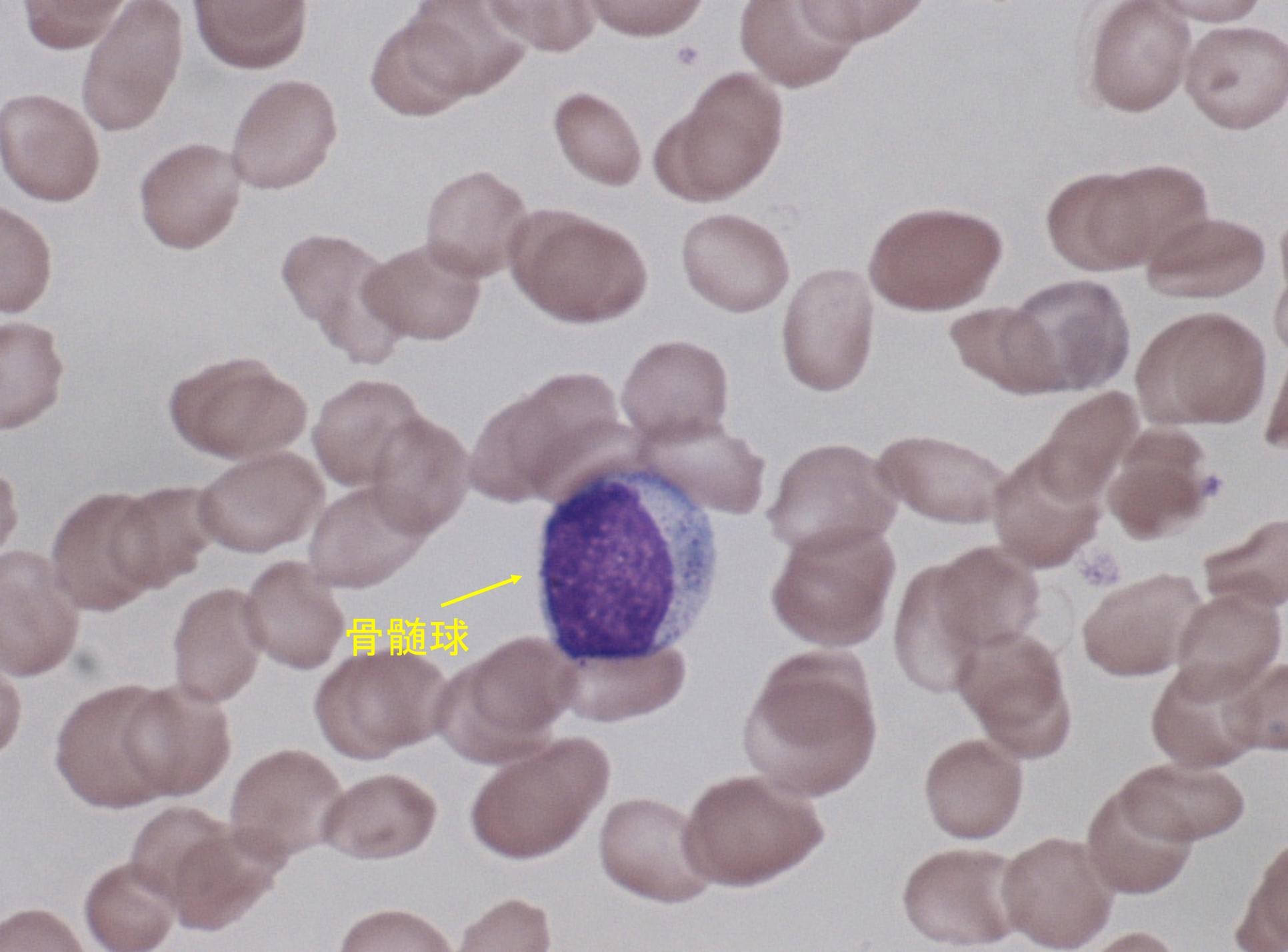
分葉好中球

異常リンパ球

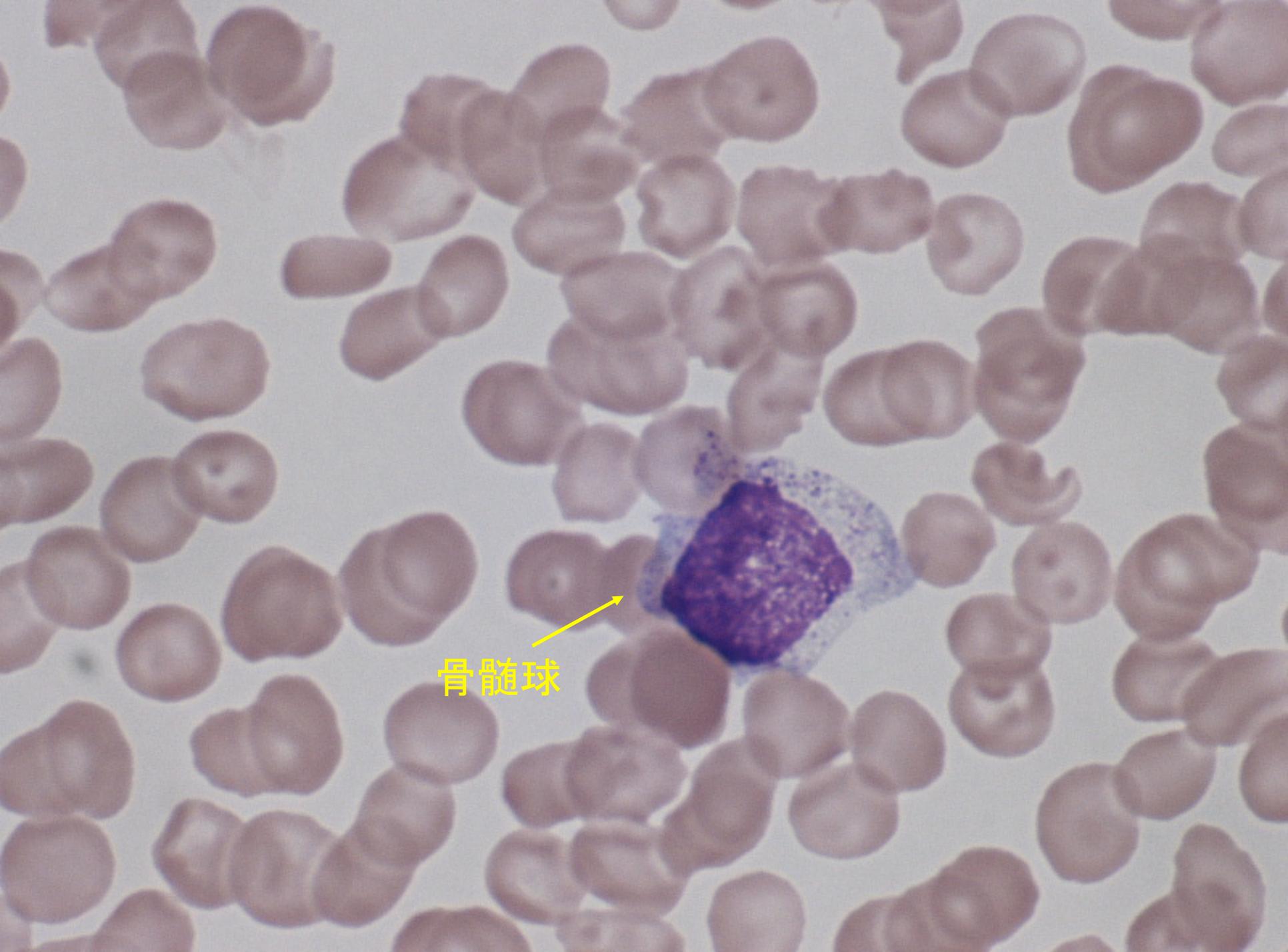


異常リンパ球

大血小板



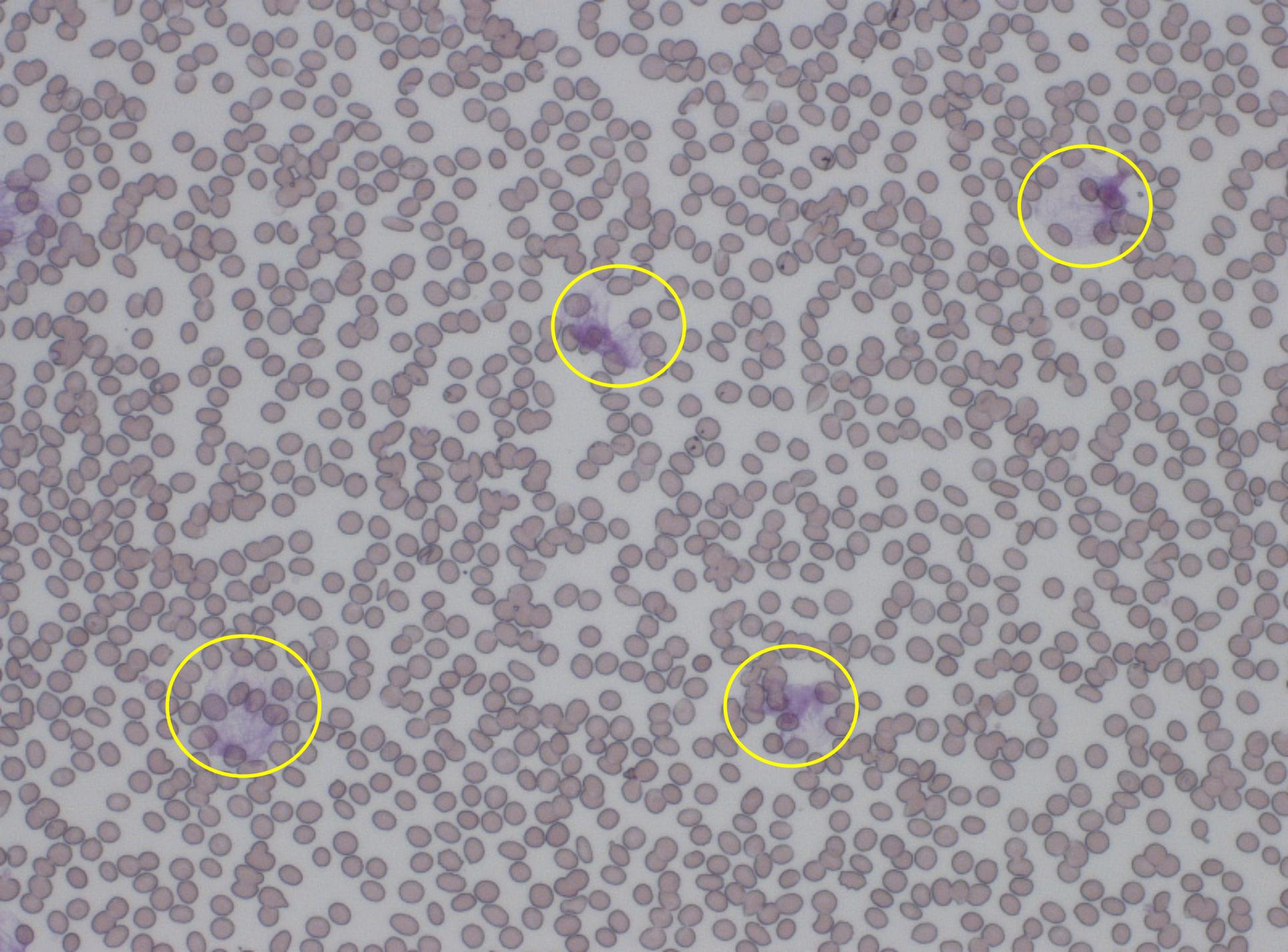
骨髓球

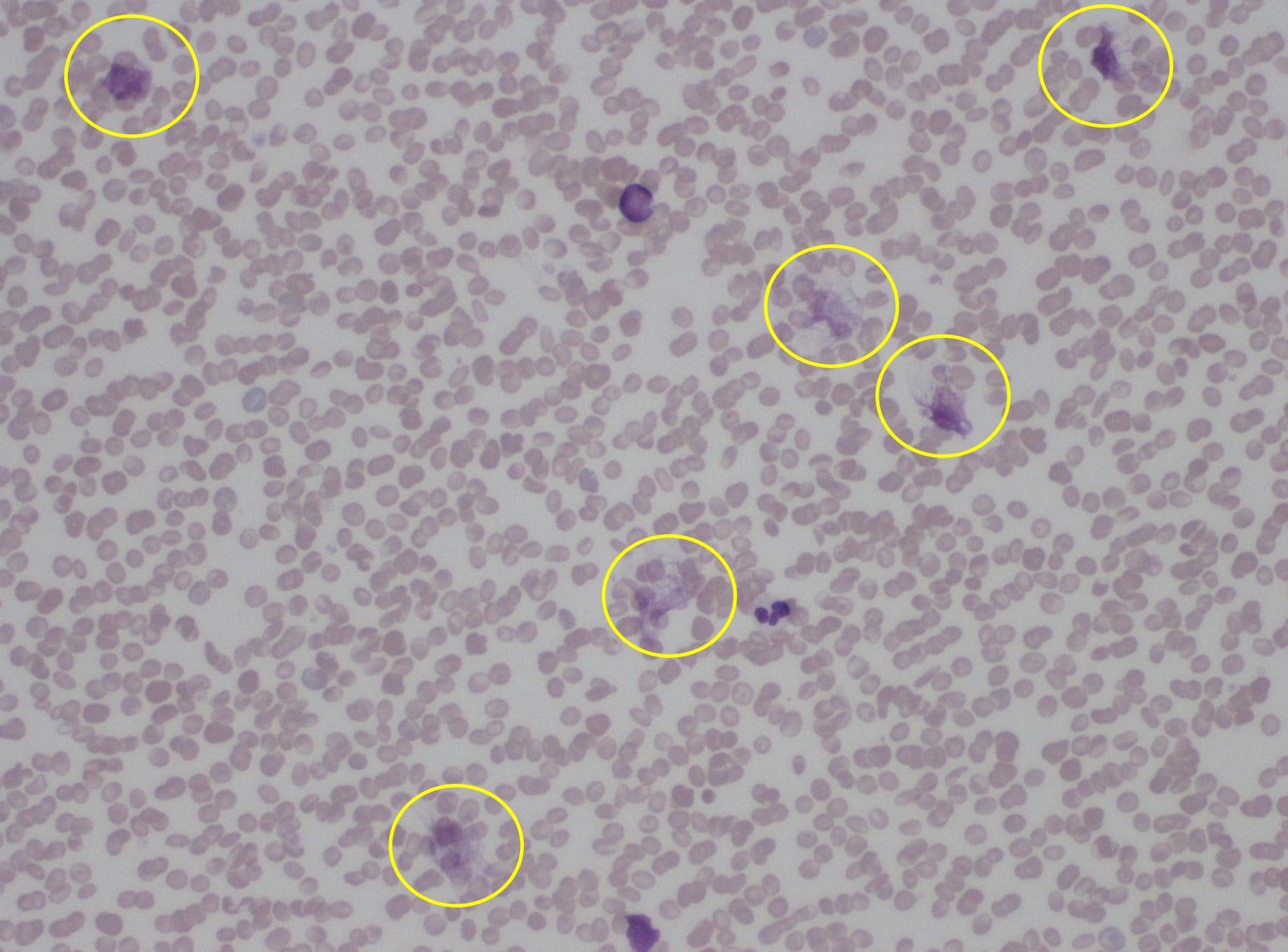


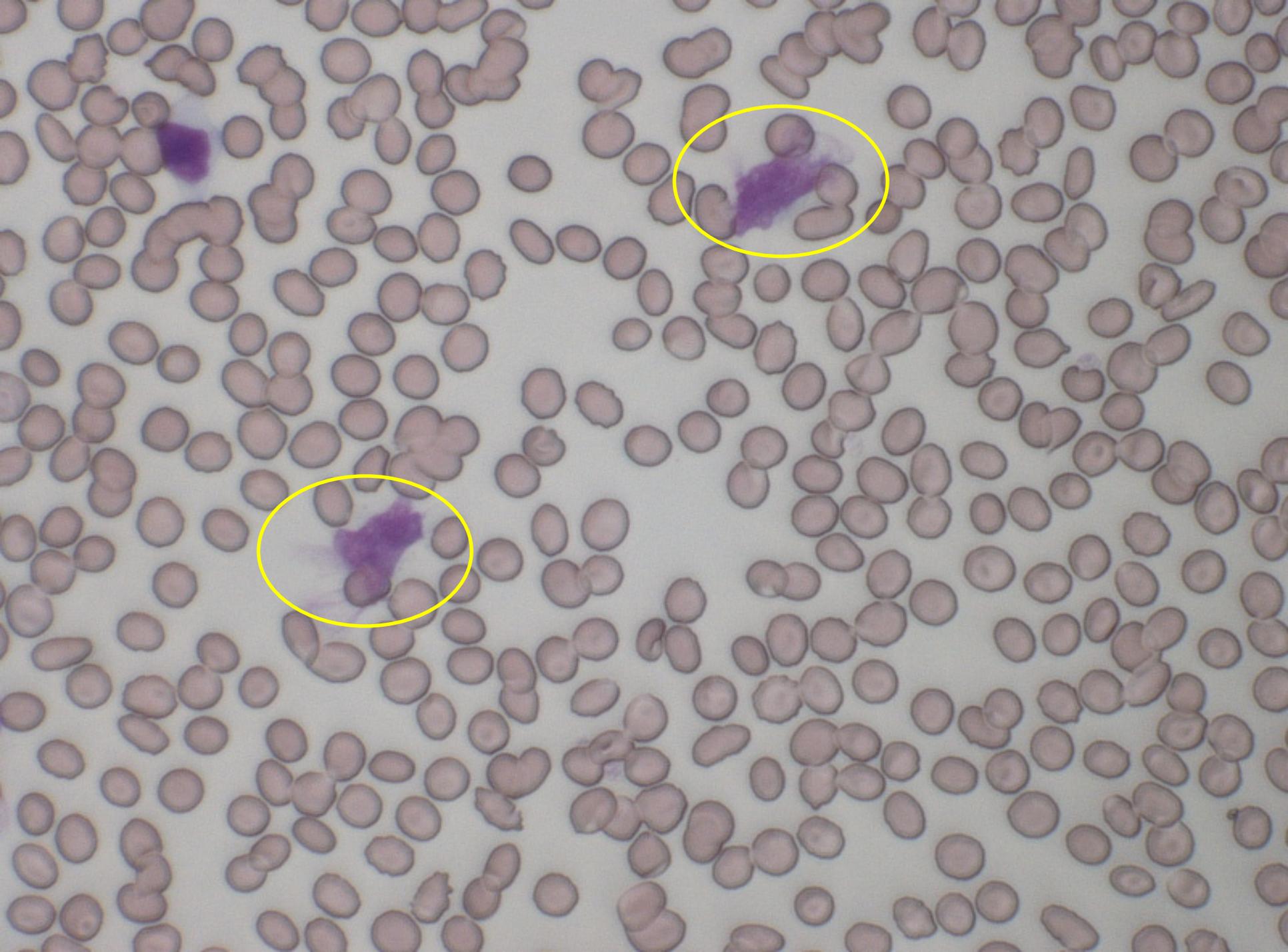
骨髓球

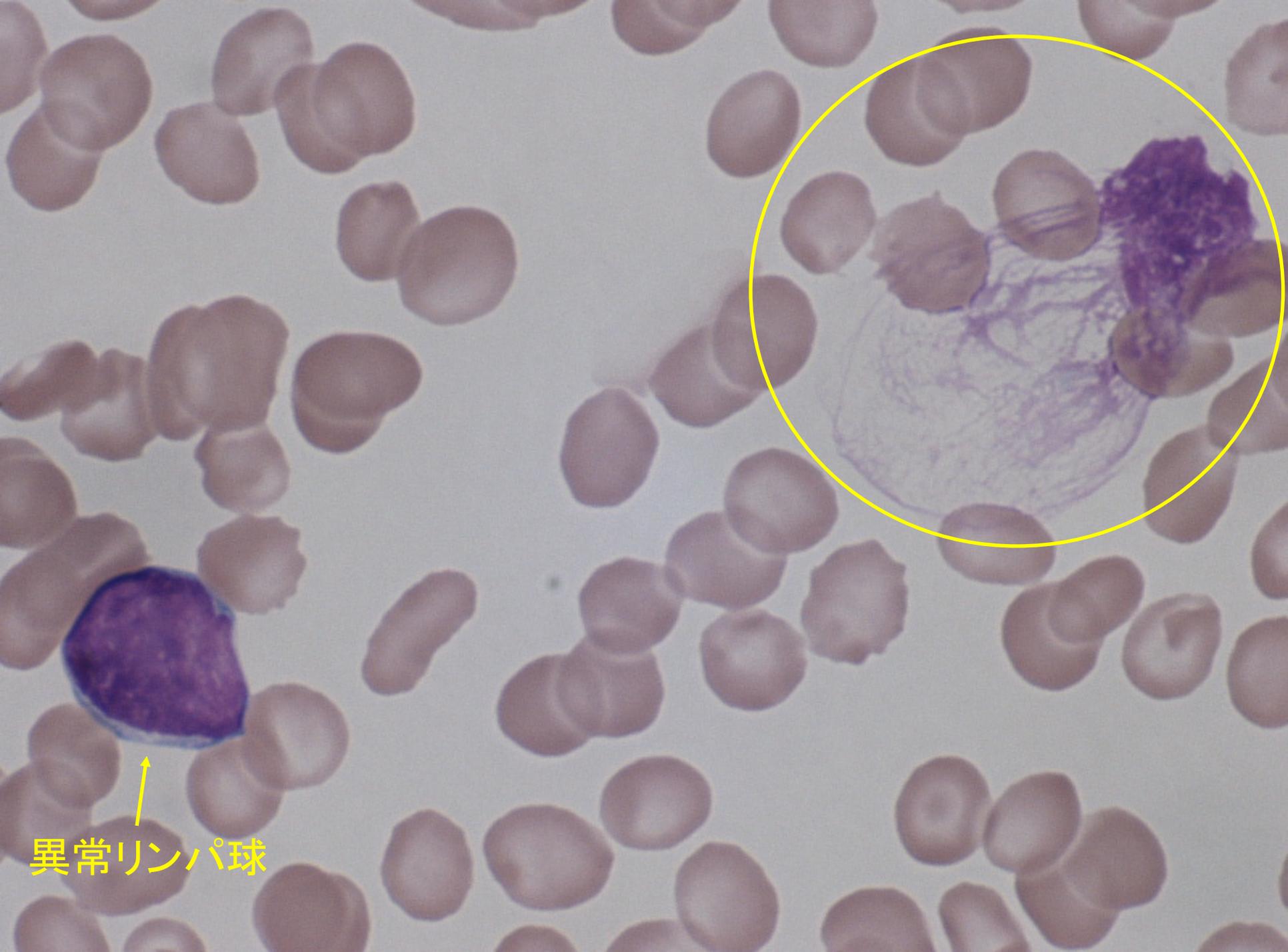


多染性赤芽球

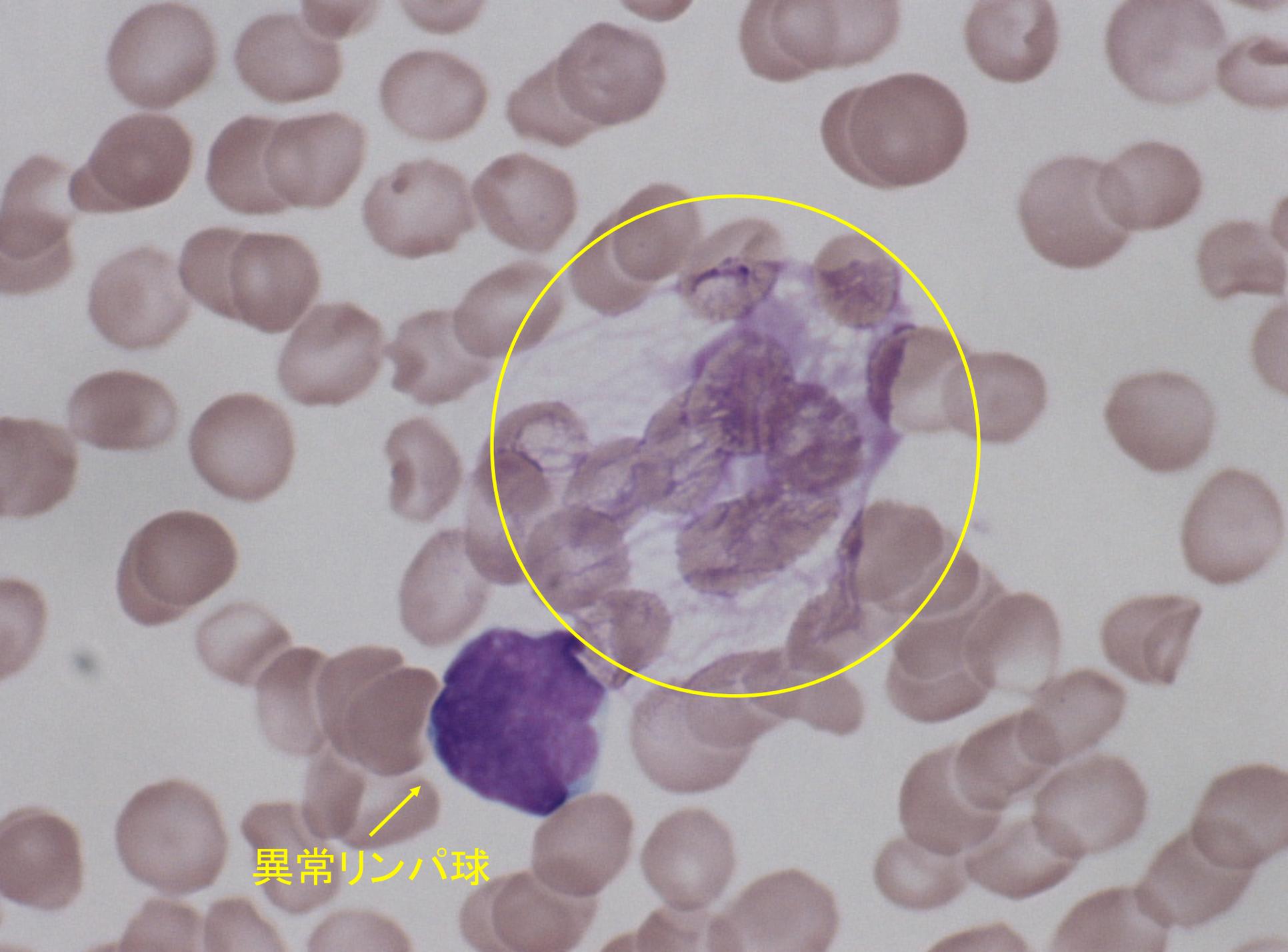








異常リンパ球



異常リンパ球

背景所見

- バスケット細胞 (basket cell) あるいは、グンプレヒト (Gumprecht) の核影が、多数出現している。
- リンパ性腫瘍では、上記細胞を認めることが多く、特徴の一つとなっている。(しかし、特異的ではない。)

異型リンパ球と異常リンパ球の定義

(日臨技勧告法)

- **異型リンパ球** (以下のうち2項目以上を認める)
 - イ) 胞体の大型化(細胞径 $16\mu\text{m}$ 以上)
 - ロ) 細胞質の好塩基性
 - ハ) 核網の粗剛化
- **異常リンパ球** (以下の所見を認める)
 - イ) 異型リンパ球判定基準の1条件を満足する
 - ロ) 核・細胞質・細胞膜などに著しい異型性を認める

赤血球形態所見

- 大小不同 (27施設/49施設中 : 55%)
 - 奇形赤血球 (17施設/49施設中 : 35%)
 - 多染性赤血球 (16施設/49施設中 : 33%)
-

血小板形態所見

- 大小不同 (25施設/49施設中 : 51%)
 - 巨大血小板 (23施設/49施設中 : 47%)
-

まとめ

- 今年度の精度管理では造血器腫瘍細胞が正しく同定されているか否かの調査を目的で行いました。
- 多くの施設で芽球細胞をはじめとする幼若顆粒球及び赤芽球を同定していただきました。
- 半数以上の施設でバスケット細胞やグンプレヒトの核影を的確に捉え、リンパ性腫瘍を推定されており、良好な結果が得られたと判断しています。